

三誌合同展示ブースへの誘い



四 宮 一 総

日頃、本誌をご愛顧いただき感謝申し上げます。本会には本誌のほか「分析化学」、*「Analytical Sciences」*の二誌があるが、いずれも学術雑誌で、研究者からの投稿により成り立っている。これに対し、本誌は会員の協力により執筆された記事により成り立つ機関誌であり、他の二誌とは性格が異なる。そのため、“読み物”としての役割と同時に学術集会の予告や報告なども掲載し、会員間の情報共有の媒体としての役割も担っている。本誌は現在、一般会員には電子版で配信しているが、以前の冊子体とは異なり、本誌の魅力を十分には伝え切れないのが実状である。そこで、近年では討論会や年会の実行委員長の許可を得て、三誌合同展示ブースを展示会場の一角に設置し、参加者に本誌の魅力を少しでもご理解頂くよう努めている。

展示ブースでは、三誌紹介のポスターと共に過去から現在まで発行された本誌を十冊程度展示し、いずれも参加者が手に取ってその内容を見ることができるようになっている。私も展示ブースの立ち番をしながら過去の記事を見ることがあるが、古さを感じない魅力的な記事に遭遇して、思わず読み入ってしまうほどである。ふだん電子版では味わえない“読み物”としての本誌を参加者にもぜひ“立ち読み”して実感してほしい。

展示ブースには本誌のほか、“再録集”の見本も展示している。再録集は過去に本誌に掲載された「入門講座」や「ミニファイル」を一冊の本にまとめたもので、市販の学術書とは異なり、平易で理解しやすい内容になっている。参加者の多くが手にとり、「こういう本が欲しかった」といって入手方法を尋ねてこれ（再録集は書店ではなく、Amazonで購入できる）、大変好評である。現在では、vol. 1～3まで3冊発行されている。

本誌の掲載記事に「技術紹介」がある。これは、企業の技術情報を各企業の担当者に執筆して頂く記事で、展示ブース出展の機会を利用して、会場に出展している企業の幾つかに執筆のご案内をしている。本会は分析化学に関係する産官学の連携の上に成り立っているものであり、本誌もその役割の一翼を担っていると自負している。

本誌が編集委員の努力のみで一方的に記事を会員に配信しているのではなく、会員一人一人が少しずつ力を出し合って本誌を盛り立て、ひいては積極的に本会の活動に参画して頂くことを願わずはいられない。三誌合同展示ブースがそのきっかけとなれば有難く、討論会、年会に参加の際にはぜひとも立ち寄って頂ければと思う。また、本誌を読んでその読後感などをお寄せ頂ければ望外の幸せである。

〔SHINOMIYA Kazufusa, 「ぶんせき」編集委員長〕